

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名 矢野原 佑史

平成17年度(入学・編入)

1.研究課題:

カメルーンの若者たちにより実践されるヒップホップに関する研究

2.派遣期間:

平成 2011年 10月 14日 ~ 2012年 1月 13日 (93 日間)

3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

今回の調査で、ヒップホップという文化を共有する西部カメルーン出身であるアングロフォンの若者と東部カメルーン出身であるフランコフォンの若者が、首都における楽曲制作の場で交流し合う状況が少しずつ生まれていることが確認できた。しかし、それと同時に、国内において圧倒的マジョリティーであるフランコフォンが未だに若者文化の面でも主導権を握っている状況も確認された。それは、ヒップホップ・ミュージシャン自身によって初めて開催された「ヒップホップ会議」にアングロフォンが1人も招待されなかったという事実に顕著であったと思う。

また、カメルーン在来の音楽とアフロ・アメリカンが生み出したヒップホップ・ミュージックとの比較を行うため、ヒップホップDJと東部州の熱帯林へ現地調査に向かい、バカ・ピグミーの音楽の現地録音・撮影を行った。ポリフォニーと呼ばれる音楽形態とヒップホップの関係性に関する貴重なデータが得られ、今後の自身の調査ならびに研究を行う際の指針ともなり得る経験ができたと思う。

4.自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今後、国内外での研究発表や英文での論文執筆ならびに投稿を行っていきたい。

5.本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

本プログラムによりアフリカへ調査に出向けたこと、特にスタッフや教員の方々の迅速かつ適切なサポートを頂けたことに感謝したい。

今後、長期間(6ヶ月以上)の現地調査ができるプログラムがあれば、さらに奥深い文化人類学的調査が可能となると思う。

署名